



# ゆうかり

2018年 9月号

発行：神奈川県連合会 県中央地域連合

〒252-1104 綾瀬市大上5-13-20 ハイツ吉川103

TEL：0467-76-4067

■発行責任者：綿引 芳弘

FAX：0467-76-4068

■編集責任者：鍛冶 邦彦

k.rengo@coral.broba.cc



子どもたちには平和クイズを

当日、参加いただいた組  
組織内・推薦議員の皆さんによるマイクリレーの間、参加組合員はウチワ型のチラシを配布。また通りがかる子どもたちには、平和クイズに挑戦してもらいました。

## ノー・モア・ヒロシマ ノー・モア・ナガサキ

### ピースウィーク行動を実施

地球上の人類を何回も全滅させるほどの核兵器が存在すると言われていています。その廃絶を世界の人々が求めているにも関わらず、遅々として進みません。それでも被爆国・日本の使命として粘り強く取り組んでいくことが大切です。

# 核兵器の廃絶をめざして

8月3日、海老名駅前にてピースウィーク行動を実施しました。平和首長会議に参加する海老名市・内野市長にアピール頂いた他、大和、座間、綾瀬市長からのメッセージも届けられました。

### 平和首長会議とは

1982年6月、ニューヨークの国連本部で開催された第2回国連軍縮特別総会において、荒木武・広島市長（当時）が、世界の都市が国境を超えて連帯し、ともに核兵器廃絶への道を切り拓こうと「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」を提唱し、広島・長崎両市長から世界各国の市長宛にこの計画への賛同を求めた。平和首長会議は、この趣旨に賛同する163ヶ国、7650都市（2018現在）で構成され、海老名、大和、座間、綾瀬を含む神奈川県内すべての自治体加盟している。



8月3日  
海老名駅前

### 2019年度に向けた政策・制度要求と提言 議員団会議で内容を検討

内野海老名市長によるアピール  
県中央地域連合は毎年秋に、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市に「政策・制度要求と提言」を提出しています。今年も労働者・生活者の視点に立った提言を練り上げるため、組織内・推薦議員の知恵をお借りすべく8月27日に議員団会議を開催しました。

国会で成立した「働き方改革」法の問題点や、今後の政労審での課題について説明を受けました。  
その後、外国人労働者を地域で受け入れる体制づくり、自治体で働く非正規職員の待遇改善、保育の問題などについて課題の共有化とともに意見交換を行いました。提言書は今後精査を加え晩秋に提出予定です。

### 連合の日 駅頭宣伝活動

県中央地域連合は全国の仲間と共に、毎月1回、大和駅、海老名駅での宣伝活動に取り組んでいます。

9月7日の大和駅では過重労働の問題を訴えるとともに、西日本豪雨災害への過



カンパへのご協力に感謝

救援カンパにも取り組みました。  
チラシを配る参加組合員に、残業についての質問が寄せられ、「ミニ労働相談」の役割も。また上の写真のように、多くの方からカンパを頂きました。連合を通して被災地に届けます。



### 神奈川県内の最低賃金

# 983円

27円up! 2018年10月1日より

# 相模川をきれいに！

座架依橋付近で

## クリーン



## 9月9日 キャンペーン

座間市のクリーン推進運動に参加する形で県中央労働協とともクリーンキャンペーンを実施しました。河川敷には例年より多くのゴミが、中にはタイヤや電化製品など首を傾げたく



集めたゴミは回収車へ

なる不法投棄物もあり、残念な状況でした。構成組合員の参加は91人。全体では約14000人が集まり、3トン近くのゴミを回収しました。

# 子ども の貧困

をテーマに

はじめに反貧困ネットワーク神奈川の幹事である西川治弁護士が講演。続いて行政の立場から座間市福祉部生活援護課の林さん、地域で子ども食堂を運営するNPO法人しんちゃんハウスの館合さんから報告がありました。その後、参加者は9グループに分かれて懇談。課題の深刻さに気付かされる会となりました。



熱心に話し合われたグループ懇談

2018  
県央地区



## 教育懇談会、開催される

知ろう！ 語り合おう！

7月26日

県中央地域連合が呼びかけて結成された実行委員会が主催し「教育懇談会」が海老名市文化会館で開催されました。初の試みでしたが様々な立場の80名が参加し、学習を深めるとともに意見交換を行いました。

## ちょっと拝見 組合活動



### JAM 日本飛行機労働組合厚木支部

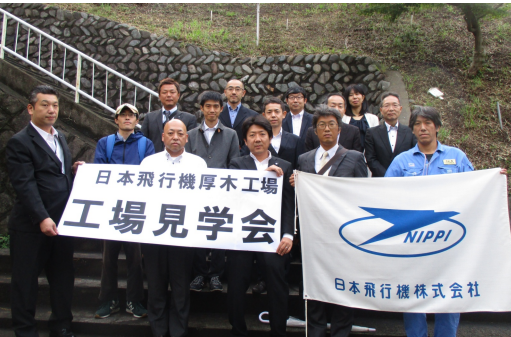
JAM神奈川

9月27日、会社のご協力を得て、厚木基地に隣接する工場を見学させて頂きました。その際に伺った労働現場や組合活動の様子をお伝えします。



1953年に出張所として厚木基地で作業を始めて以来、厚木工場への発展に伴って1957年に厚木支部が創立されました。当時は米軍の政策変更のたびに雇用不安が続きまとい、人員整理などへの対応に追われる組合活動だったようです。

組合事務所は社内の一角に設けられるのが一般的ですが、日飛労組は大和駅徒歩3分の場所に組合会館を所有しています。米軍が労働組合を毛嫌いしたため、工場内に事務所を設置することができず、空き家や洋服店の2階などを転々としたそうです。会議を開くにも飲み屋の広間を借りたりと苦勞の末、組合会館建設を決議。1968年に落成した会館は、組合員が三千円ずつ拠出（5年後に利子をつけて返済）し、不足分は友愛（現在は労金に統合）から融資を受けて建てられたそうです。当時の物価・賃金水準からすると、組合員の固い団結が推察されます。



現在、厚木支部の組合員は330人ほど。主な業務である米軍機および自衛隊機の整備・修理にあたっています。板金や電気・電子系、機装など技術を生かした仕事になっています。工場内で整備する航空機は、武器や火薬類全てを降ろした状態で入ってくるのと、それでも一つ間違えば、重大事故につながる作業のため、細心の注意と厳格な点

検を行っています。

見学したこの日にはハンガー（建屋）内に7基のp3哨戒機が、塗装を落とした機体に貼られた無数の目印はサビの箇所。どんなに微細なものも見逃さず、徹底的に落とすのだそうです。なお残念ながら扱っている物の性質上、工場内を写真で紹介することはできません。



大和中央5丁目にある組合会館

最近の交渉テーマの一つとして有給休暇の取得形態があつたそうです。組合員の要望に基づき、法定分を超える2日分については、午後3時より2時間×8回の取得が可能となりました。また組合の恒例行事は潮干狩り、餅つき、地引網など。家族を含め交流を深めています。さらに毎月、職場で労金・労済の相談会を実施し、組合員の福利厚生や生活安定にも努めているところだそうです。